

オンラインでのJPOPM開催についての検討報告

2020/11/30

JPOPF-ST

コロナ渦における JPOPM のオンライン化

JPOPMについて

JPOPMは、コミュニティの合意形成を行うための2つの手段の内の1つ。

- ・ ミーティング(JPOPM) ← 本日はこちらの話
- ・ ML (ip-users@)

従来の合意判断方法

Chair が以下等により総合的に判断

- ・ 挙手による合意者・反対者の数や割合
- ・ 意見の内容や理由・会場からの賛同の質や量
- ・ 出席者のうなずきや表情等

従来のJPOPMの運営

主 : 年2回の対面ミーティング
補完: Twitter・YouTube live



JPOPM38(前回) の運営

主を Web会議によるオンライン開催とした。

前回(2020年7月のJPOPM38) の運営方法及び気付き

前回の運営

- 事前申込者のみにWeb会議の URL をご案内した。
- 当日、厳格なルールを設けなかった。(ミュートのお願いと、発言の際にWeb会議のチャットで意見が有る旨をお知らせいただく程度)

リモート開催の利点

- これまで出席できなかった人が出席しやすくなった。
 - 遠隔地から出張が不要
 - 東京近郊からも移動の時間が不要
 - 気軽感が増した

苦勞

- 出席者の一意性の担保
 - リモートの場合、現地に複数人を出向させることなく出席させられる。(組織票を入れやすい)
 - 一人が複数のWeb会議アカウントを使って複数の意思表示できる。
- コミュニケーションが一方方向になりやすい
- 合意確認の判断材料が減った
 - 出席者の表情や相槌等が見えず(視覚)、ミュートにより無音(聴覚)のため、「不安」が生じる。

検討事項についての意見交換

- 一意性確保のための手段として、
 - Web会議での顔出し
 - Web会議での所属・氏名出し
 - その他？
- ※ 考慮事項：
 - 強制にしたら出席者が減らないか。任意にした場合の協力者数は？
 - 自宅 (又は会社等) からの出席者はカメラをオンにできるか。
 - 回線の帯域は十分か。
 - 会社の自席では声を出しにくい、などは無いか。
- コミュニケーションを双方向にするための手段として、
 - ツールの併用 (sli.do 等) 次回実施で検討中
 - その他？
- 判断材料の確保として、
 - (そもそも)出席者の表情や相槌等を判断材料(確信)に使うべきではない？
 - その他？

- 仮にコロナが解消した場合、今後のJPOPMは、
 - 現地開催が良いか
 - リモート開催が良いか
 - 併用が良いか。

- 理由は？